

ずいそう

失敗学で失敗することを恐れずにテレビに挑戦

中尾政之



人間は挑戦するから失敗するのである。失敗したくなかったら新しいことは何もしないのが一番。でも最近、何もしない役人は不作為で訴えられる。黒沢映画の「生きる」みたいに、役人でさえ人生瀬戸際では何かやりたくなる。毎日が同じというのは、好奇心のかたまりの筆者にはつらい。

筆者の本業は、生産技術である。ものを設計し作るうちに失敗して、失敗学が始まった。それが発展して、突然にテレビの出演依頼が来た。まったく華やかさがない工学部の住民にとって別世界である。でも大学人にとってテレビ出演は必ずしもプラスではない。まして柔らかなバラエティは……

しかし「世界一受けたい授業」に出ませんか、という日テレからの電話に二つ返事で受けてしまった。だが、すぐに打ち合わせに来たディレクターは、筆者の執筆したエンジニア向けの「失敗百選」を持ってきて言う。すみませんが、技術拔きの失敗学でやれませんか。視聴者はそんな難しいことはわかりません。自動車や自宅の事故も抜きです。この番組にその業種のスポンサーさんがいますので。そうこうするうちに、ドアの指挟みとか箱形ブランコからの転落とか、あまり技術の匂いのしない事例が選ばれた。

収録当日は「台本を暗記してください。でもカンペ（カンニングペーパー）も出しますのでご安心を」とか言われてハイッ登場となった。するといきなり、バラエティの芸能人が勝手なことを言い出した。渡辺徹さんがダイエットの失敗を話だし、タカアンドトシは「欧米か」を連発し、もう頭が真っ白になった。堺正章さんは芸人を泳がしているんです、とそつと言うが、どこで台本に戻るかがわからない。もうバカバカしくなってこちらも台本を無視して好きに話した。マネージャーのように舞台裏で見ていた妻の感想は、ネクタイピンが曲がってる、髪の毛が立ってる、一緒にケタケタ笑ってる。最悪……

筆者と一緒に前後して収録した、有名な国際弁護士と造顔マッサージ師は場慣れしていて、取り直しはほんのちょっとだった。筆者はその後で居残りとなり、カンペの読み直しをさせられた。その後も高級カラオケのような赤坂の収録室で、CGに合わせて音入れさ

せられた。そういう努力を積み重ねて4月28日に放映。プロの継ぎ接ぎ編集のうまさに感心したが、小学生の息子でも笑う内容でホッとした。アシスタントプロデューサーからは、視聴率は時間帯トップの17.3%で、「オーラの泉」に勝った、と電話があった。

しかし、5月の連休を終えて大学に来ると、エレベーターの中でさっそく嫌み。タレントだねえ。文転できるよ（ちょうど文系学部にと転部希望の学生が多いと教員内で話題になった）。失敗学で失敗しないでね、云々。

しかし、降れば土砂降りである。フジテレビの「ニュースジャパン」から、ジェットコースターの事故を失敗学で解説して下さいと依頼がきた。よせばいいのに即座に受けてしまった。綺麗な滝川さんに会えるのかと期待していたが、ディレクターと1時間、対談しただけだった。しかし、わずか4分間の放映だったが、筆者の言いたいことは全部入って満足。

案の定、次の日の工学系の会議でも嫌み。事故は尽きないネエ。でもね、石川五右衛門だって「世に事故（盗人だったか？）の種は尽きまじ」と言うくらい、それは真実ナンデスヨ。

昨年、研究科長から「失敗学の実験室を君にあげよう」という有り難いお申し出をいただき、工学系等の安全衛生管理室長に就いた。ひたすら雑巾掛けの仕事である。今日は非常用食料の貯蔵を見に行った。1年に100万円分も買うから、賞味期間5年分だとすごい量になる。氷砂糖入り乾パンとはどんな味がするのだろうかと思いつつ、今年分を承認……

挑戦するから失敗する。けれど挑戦しなければ成功しない。今年は、社会連携講座なるものを制度設計して、建設機械のコマツさんと始める。たちまちご意見。大学は企業の下請けではない。土砂の掘削では古ぼけてる。今年は科学研究費の1億円コースの基盤Sが当たった。100 nm ピッチの積層モザイクの光学シートを作る研究だが、それでも言われる。君の専門は複雑怪奇。どっちにしても嫌みは言われるのである。挑戦したほうがよい。